

社会福祉法人若葉会

平成 29 年度事業報告書

1. 法人の概要

(1) 施設並びに事業

保育所型認定こども園 わかば保育園
病後児保育事業：子育て支援拠点事業
小規模保育所 わかば保育園
塩沢金城わかば児童館
放課後児童クラブ 金城クラブ
放課後児童クラブ わかばクラブ
放課後児童クラブ 牧之クラブ
塩沢デイサービスセンターゆきつばき
総合施設ゆきつばき
居宅介護支援事業所ゆきつばき
雲洞デイサービスセンターつばき園
雲洞グループホームつばき園

(2) 役員

別紙（法人役員名簿参照）

(3) その他

姉妹法人 学校法人 金城学園

2. 事業の概要

- (1) 各施設管理者の育成
- (2) 各施設の事業計画に基づく事業の遂行
- (3) 職員研修並びに育成

3. 財務の概要

- (1) 平成 29 年度計算書類参照
資金収支計算書
事業活動計算書
貸借対照表
財産目録

4. 本年度の主な施設整備

- (1) 小規模保育所わかば保育園・総合施設ゆきつばき・居宅介護支援事業所ゆきつばき
施設整備（私立保育園施設整備費補助金、赤い羽根共同募金会助成金）
平成 29 年 10 月 10 日完成

5. 監査報告

- (1) 監事による監査報告

以上

社会福祉法人 若葉会 理事・監事名簿

任期 平成 29 年 6 月 20 日から

就任後 2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結まで

平成 29 年 6 月 20 日

役職	氏名	職業・役職名・職歴
理事長	角谷 正雄	幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園園長 南魚沼市教育委員
理事	角谷 教恵	幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園 保育園長 塩沢金城わかば児童館館長
理事	大平 梨花	保育所型認定こども園 わかば保育園長
理事	岩田 拓	塩沢デｲｰﾋﾞｰｽﾃﾝﾀｰゆきつばき 施設長
理事	南雲 武仁	雲洞デｲｰﾋﾞｰｽﾃﾝﾀｰつばき園 施設長
理事	岡田 稔	東京福祉大学 教授 元 宮城県介護福祉士会長
監事	桐生 厚義	桐生司法書士事務所長 (福)雪国ボランティア苦情第三者委員
監事	阿部 淳	(株)雪国リゾートインフォメーション代表取締役 (株)喜太郎商店代表取締役
監事	八木 三男治	元 小学校長 元 主任児童委員

社会福祉法人 若葉会 評議員名簿

任期：平成 29 年 4 月 1 日から

就任後 5 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会終結まで

平成 29 年 4 月 1 日

役職	氏名	職業・役職名・職歴
評議員	高野 信義	金沢屋酒店会長 元 塩沢町議会議員 元 南魚沼福祉会理事
評議員	須藤 利春	ｽｯｶﾝｽﾞ店会長 元 塩沢町商工会理事
評議員	小林 英樹	小林整骨院院長
評議員	桑原 博	桑原織物社長 主任児童委員 塩沢地区青少年健全育成会会長
評議員	洲崎 裕子	つむぎの里役員 塩沢地域育成会役員 元 金城幼稚園 PTA 副会長
評議員	山田 浩史	社会福祉法人 清栄会 群馬県社会福祉協議会評議員 前橋市社会福祉協議会理事
評議員	高野 武彦	南魚沼市社会福祉協議会会長
評議員	貝瀬 幹夫	南魚沼市民生委員・児童委員

平成29年度 施設別 年間事業報告施設名(認定こども園わかば保育園)

項目	内容		具体的方策
基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにはかたがたに、私たちが挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります		福祉サービスの先駆者としてキャリアの向上を図りより良い福祉の提供に努める豊かな地域社会と自然を生かした保育と子育て拠点の事業所として定着を図る
理念	家庭や地域社会、姉妹園や若業会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意、乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る		
項目	内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1 保育理念・保育目標の理解と取り組み 保育と行事のつながりを考えた計画と実践	生命の保持(健康管理や事故に対する予防)を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整える 保育と行事のつながりを考えた計画と実践	健康管理では感染症予防に努め感染者を少人数でくい止められた 保育参観での遊びの紹介では目的意識を伝えられる職員が増え計画に反映出来た
	2 保育に活かせる計画の立案と実践の充実	書式の連続性に従い情報収集、分析および課題設定を行い、長期的・短期的計画の見直しをする 小学校へ繋げる保育・教育を展開と記録の充実	年間指導計画から週日案の立案と保育の実践がつながるよう遊び内容の振り返りを行い計画変更を行う 小学校へつなげる基本的な生活習慣の見直しを家庭と共通認識し働きかけた
	3 人材育成と職員の資質向上	キャリアアップシートの活用と精査 職員が学びたい研修内容を立案実施し保育へ活かせる連続性を確立する 定められた時間内に効率よく出来る仕事方法や環境を考え職員間で意識し実践	キャリアアップシートを活用し面接を行う中で同じ目標に向かい統一出来、また職員の困り感について話す機会が持てた 保育に活かせる研修内容を立案し保育に取り入れている部分を評価し、家庭に説明できる職員の質の向上につながった 会議の内容を精査し時間の使い方を見直す また以上児クラスの運営会議など皆が集まり相談できる場を持ち時間の使い方を職員で考え実践した
	4 地域に根差した園の取り組みのPR	周辺の田んぼや畑作業の見学を通し交流を深める 地域の清掃活動を実施 地域の方と考える防災予防(消火訓練の呼びかけ)	地域の清掃活動を子どもと一緒にやったがアピールは弱い地域へのアピールも忘れないようにする 地域周辺へおたよりを配布し園の取り組みの参加を呼び掛けた
その他計画と目標	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
	入所述べ人数 23,500人	利用者数 述べ H28年度 19,540人 H29年度 23,598人	一号認定を15人から5人へ 二号・三号認定を90人へ変更し計95人の定員にする
	病後児保育事業 年間利用者数を20人めざす	利用人数 H28年度 0人 H29年度 2人 0歳児途中入園時対応のため本事業は途中で補助金対象とせず目標人数にいかなかった	小規模保育所と連携し0・1歳児を小規模で受け入れ病後児保育に対応していく
	一時預かり事業 年間利用者数80人をめざす	利用人数 H28年度 67人 H29年度 36人 利用者はそれほど多くなく希望された方には対応が出来た	余裕活用型で行う場合、職員配置が出ていないと断ることになるため、利用する方の要望には応えていきたい
	地域子育て支援事業 年間利用者数100人をめざす	利用者数 H28年度 145組 述べ相談件数35件 H29年度 253組 述べ相談件数58件 親子クッキングの講師や内容を見直しリピーターが増えた事業担当者の得意分野を生かした講座に力	ランチルームを用意し弁当を食べるスペースを確保し自由に立ち寄れる場の提供に心がける 大きなイベント内容を検討する(親子で英語・親子でダンス)
事故報告	事件数	内容	対策
		なし	
苦情申立	0件	なし	

平成29年度 施設別 年間事業報告
施設名(小規模保育所わかば保育園)

基本的な考え方		私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちが挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります		
理念		家庭や地域社会、姉妹園や若葉会関連施設と連携を取り、一人ひとりが自己を十分に発揮しながら活動出来る環境を用意、乳幼児の健全な心身の発達と家庭における子育て支援を図る		
項目		内 容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1	保育理念・保育目標の理解と取り組み	<p>生命の保持（健康管理や事故に対する予防）を行いながら健全な心身の発達を促されるような、自己を十分に発揮できる遊び環境や生活環境を整える</p> <p>心身共に明るく、思いやりや気配りができ、自ら考えて行動が出来るように保育者がお手本となり、保育に携わる</p>	<p>健康管理では感染症予防に努め感染者を少人数でくい止められた</p> <p>保育参観での遊びの紹介では目的意識を伝えられる職員が増え計画に反映出来た</p>
	2	人材育成と職員の質の向上	<p>キャリアアップシートの活用と精査</p> <p>職員が学びたい研修内容を立案実施をし保育へ活かせる連続性を確立</p> <p>定められた時間内に効率よく出来る仕事方法を職員間で意識し実践</p>	<p>キャリアアップシートを活用し面接を行う中で同じ目標に向かい統一出来、また職員の困り感について話す機会が持てた</p> <p>保育に活かせる研修内容を立案し保育に取り入れている部分を評価し、家庭に説明できる職員の質の向上につながった会議の内容を精査し時間の使い方を見直す</p>
	3	地域の社会との関わりを深める	<p>介護施設職員との連携（急病時や緊急事態に職員間での連絡を密に行う）</p> <p>地域の方と考える防災予防（消火訓練の呼びかけ）</p>	<p>介護職員が同じ建物内にいることで連絡や協力しやすくなった</p> <p>避難訓練等で連携の仕方を確認し協力体制を整える</p>
目標と成果	数 値 目 標		実 績	来年度へ向けての方策
	年間平均在所率は2,425人		<p>利用人数 述べ H28年度 1,543人</p> <p>述べ H29年度 2,724人</p> <p>年度途中（10月）で定員の10人を超えた為 15人定員に変更を行う</p>	<p>小規模保育所の特徴を伝え、申込みしやすい宣伝を心がける</p> <p>受け入れ可能な職員配置を整える</p>
事故報告	事故件数	内 容		対 策
		なし		
苦情申立	0件	なし		

平成29年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名(塩沢金城わかば子育て支援センター・わかばクラブ・金城クラブ・牧之クラブ・塩沢金城わかば児童館)

<p>基本的な考え方</p>	<p>私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか抱えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります</p>			
<p>理念</p>	<p>児童館活動および子育て支援拠点事業を通して、家庭や地域社会及び姉妹園関連施設と連携を図り、子どもたちに健全な遊びを与え、健康増進と情操の涵養を図る 一人ひとりの児童がこれからの長い人生を生きる勇気・知恵・やさしさを持てるよう、放課後児童クラブにおいて直接的基本的な体験をさせる。</p>			
<p>項目</p>	<p>内容</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価・反省</p>	
<p>年度基本方針</p>	<p>1 牧之クラブの新設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の利用定員増に対応するため、3クラブを円滑に運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主担当を決めたことで、役割を明確にして3クラブ運営はできたが、担当者の経験力量の差を指導育成することが難しかった。 	
	<p>2 “児童館”としての事業目的・運営・方針の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間の共通理解および協力体制を確認しつつ、月一回日曜日に児童館行事を開催する ・参加者のニーズに合わせた魅力ある子育て支援事業を実施するために、ママズカフェを月一回開催し情報収集に努める。 ・自由来館者のニーズに合わせて館内環境設定の見直しを行う ・保育環境を整え、児童が安定した生活を送れるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館行事は職員間の連携を図りつつ実施できた。 ・ママズカフェでの情報により、子育て支援事業の活動内容が参加者のニーズに合ったものになっている。 ・自己点検自己評価でも課題として挙がり、館内環境設定の見直しを年度末に着手したが、備品購入等間に合わず平成30年度に持ち越し継続して改善していくことになった。 	
	<p>3 職員の資質や能力・良識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「業務担当一覧表」を効果的に活用し、新規採用職員を含む教職員間の役割分担を明確にすることで、円滑な連絡協力体制を確立する ・放課後児童クラブ運営指針に基づく、質の高い学童保育を目指す ・職員の得意分野を生かした学童対象クラブ活動の充実を図る ・自己点検・自己評価の継続 ・第三者評価受審準備を進め、適切な運営管理や福祉サービスの在り方について各職員の理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認が不十分で活用しきれなかった。 ・月末週末に基づき学童保育の充実を図った。担当者の力量・経験差を指導援助することが難しかった。 ・職員自身の研鑽の機会となった。 ・夏季は分析・改善策実行が進まず、冬期の課題と合わせて年度末に改善策実行することになった。 ・平成30年度に持ち越しの課題となった。 	
	<p>4 地域の自然や社会との関わりを深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹園・学童のみでなく、地域の小学校・保育所にも情報発信し、行事参加を促す ・地域の公共施設及び関係者(子育てネットワーク会議等)・小学校との連携を図り、地域に密着した支援を行っていく ・ボランティアを積極的に受け入れ、有意義な機会となるよう働きかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・市子育て支援課を通じて依頼するようになったことで、確実に各園でお便りを配布していただけるようになった。 ・会議の時間を見直し、議題をあらかじめお知らせするようになったことで参加者のご意見を多くいただけるようになった。 ・行事へのボランティア参加が定着し、今後の人材確保に資すると期待できる。 	
	<p>5 環境教育の活用、定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育に畑を活用し、自然体験・エコ活動につなげる ・水光熱費、ごみなどの無駄をなくし、現在ある設備を有効活用することで経費削減を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラブごとに畑の区分を決めたことで活用しやすくなり、子どもたちが楽しんで自然体験できた。 ・今後も継続して取り組んでいく。 	
	<p>目標と成果</p>	<p>数値目標</p>	<p>実績</p>	<p>来年度に向けての方策</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の児童館行事への小学生参加増 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度 407人 ・平成29年度 312人 	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児とその保護者の参加が多く、行事全体の運営は順調であったが、小学生の占める割合は減少傾向にある。今後も小学生にとって魅力ある行事を検討、実施していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学童フェスティバルに保護者や地域の方々から参加いただく 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度 209人 ・平成29年度 231人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示やおたより配布の成果により、学童保護者や次年度入会予定の幼児と保護者に足を運んでいただいた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもエコクラブに加入し、学童児を中心にエコ活動の実践をする ・水光熱費+ごみ処理費用+消耗品費の削減、(前年度比96%)を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし ・増改築により前年度実績との比較不可。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続加入必要か検討する。 ・平成29年度の数字を基本に検討する。

平成29年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告
施設名(塩沢デイサービスセンターゆきつばき)

基本的な考え方		私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにしか担えないこと、私たちだから挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		
理念		私たちは、ご利用者の皆様がゆきつばきでの生活を思う存分楽しんで頂けることを願っています。		
項目		内容	具体的方策	評価・反省
年度基本方針	1	更なるサービスの質の向上を図り、職員の『支えたい』という思いより、ご利用者自らが『来たい』と思ってもらえることに重点をおく。	ゆきつばきの理念をよく理解し、ご利用者やご家族にとって心地よい環境(施設・人)として、信頼される施設を目指す。	自宅に長い間引きこもられていた方が、ゆきつばきを休まず利用されたケースがあり、生活に楽しみが増えたと評価する。こういった実績を今後も増やしていきたい。
			『本人会議』から導き出したニーズを中心に、新しいメニューを考案していく。	機能訓練加算対象者が増加しており、ご本人の課題解決に向けた取り組みが成されている。
			ゆきつばきに登録されているご利用者の高齢化に伴い、下半期では入院や冬季入所をされるご利用者が増えてきており、対応が後手になってきている。早めに情報等をキャッチし、早期に対応する。	冬季は体調を崩されるご利用者がやはり多い。入退院される方や亡くられる方もおられる中、新規の依頼も多くあり稼働率の低下に伴いパート職員の人件費を削減するなどに対応。近隣のデイサービスの閉鎖に伴う新規の獲得を得られ、今は実績も伸びてきている。
	2	地域に密着した施設として、法人内の幼稚園・保育園と連携しながら、地域に貢献する活動を実施することで、地域からの信頼を得るとともに、ゆきつばきの需要を高める。	法人内の幼稚園・保育園の園児との交流を教職員と連携し、より充実したものにする。	幼稚園・保育園の園児との交流がご利用者の張り合いになっている。またブローチ作りなど『役に立つ』機会を継続して保っていきたい。
			ボランティアの受入れなど、地域住民皆様から足を運んで頂き、地域に開かれた施設として信頼を得ていく。	新たなボランティアさんが増え、ボランティアの皆さんの張り合いに繋がっている様子。地域の方との距離を維持していきたい。
	3	平成29年度からの、小規模わかばでの新規事業(総合事業等)の計画を進めていく。	夏以降の総合事業立ち上げに向け、施設の整備内容やサービス内容など準備を進めていく。	事業のスタートが準備不足のため遅れてしまった。他の事業所と違ったメニューを取り入れ、ご利用者からも喜ばれている。
地域との繋がりを大切にサービスを構築するべく、各地の活動など情報収集を行っていく。そして塩沢だからできること、ゆきつばきだからできることを考案し、他事業所との差別化を図る。			ゆきつばきで提供していたおやつ作りなどをメニューに取り入れ、運動(機能訓練)ばかりしている他の事業所との差別化を図っている。	
目標と成果		数値目標	実績	来年度に向けての方策
		620/月(年間:7,440)	【H28年度】 604/月(年間:7,258) 【H29年度】 596/月(年間:7,153)	近隣のデイサービスの閉鎖に伴い利用者が増加する見込みである。すでに新規を受け入れられない状況ではあるが、冬場の利用実績の落ち込みを考えると冬場までに高水準の実績を残しておきたい。
事故 苦情 報告	事故 苦情 件数	内 容		対 策
	0件			直接大きな事故はなかったが、ご利用者の体調管理をするうえで、血圧などの管理や情報共有を今まで以上にしっかりと行っていきたい。

H29年度 社会福祉法人若葉会 施設別 年間事業報告

施設名 居宅介護支援事業所 ゆきつばき

基本的な考え方	私達は地域の児童・高齢者の皆様のより良い生活の実現を目指し、時代に流れの先にある私達にしか抱えないこと、私達だから挑戦しなければならないことを適時、的確に捉え自立した地域社会の一員としての自覚と幼児教育、福祉サービスの先駆者としての誇りをもち果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります。		
理念	住み慣れた地域で利用者が自分らしく生活できるように支援します。		
具体的方策	地域包括ケアシステム構築に伴い、更に地域に貢献できる事業所としてのステップアップを図る。		
項目	内容	具体的方策	評価、反省
年度基本方針	1 職員の資質向上	・個人の課題を明確にし年度個人計画作成課題への取り組み	・過去になく新規依頼の多い年で個々が業務の振り返りを行なう余裕なく多忙な1年だった。個人研修計画の中ではそのような中にも確実に得られたもの、反省もあり次年度への課題も明確にすることができた。
		・居宅会議でのケアプランに対し外部からの点検、評価を受ける。	・上記のとおり新規依頼に追われケアプラン点検の依頼を包括にしたが実行に移すことができなかった。事業の内容を立てるだけでなく実際にいつ行なうのかをきちんと決めていなかったことが原因、次年度は実施月をきちんと決めるように気をつけていきたい。
		・各種研修、地域包括での研修会への参加	・各種研修会、包括支援センターへの研修会には各人が業務調整を行ない参加するように心がけた。
		・支援の中での実践報告(良い点、悪い点)職員間の共有	・居宅会議にて業務を振り返り気をつける点などの共有を行なうことができた。利用者の家族状況、生活環境も多様化しており今後も継続していく必要があると感じる。
	2 認知症ご利用者とそのご家族への適切な支援の実施	・認知症ケアについて学べる機会に積極的に参加	・認知症の研修会参加、また今年度は職員3名がキャラバンメイトとなり今後は認知症サポーター養成講座への援助者としても参加していく予定。
		・居宅会議での話合いの充実	・型どおりの検討内容に沿い進行している。認知症の利用者、ご家族に限らず今後も居宅会議の内容は振り返り改善しながら内容の充実を考えていく必要があると感じる。
		・事業所内での事例検討会の開催(包括からの参加もお願いをする)	・計画性がなく実施することができなかった。次年度は実施月をきちんと決めて行ないたい。
		・本人家族から今までの生活について聞き取り工夫研究を行い本人、家族の望む支援に活かす	・研修に参加し知識を得たり、各人がアセスメント力を深め工夫研究が行なわれている。ケアプラン検討用紙が細やかにその人らしい内容に変化していると感じる。
	3 新人職員の育成	・マニュアルの見直し	・夏の研修にて皆で見直しの機会を持ち新人職員と共に確認を行なうことができた。
		・同行訪問、会議等への同行出席	・新規依頼者には新人職員に限らず管理者が同行訪問を行なうようにした。本人、家庭状況がわかることでその後の相談などにも生かすことができた。
		・事業所各職員が新人職員育成に取り組む姿勢をもち人材を育てる。	・各人が新人育成を意識し管理者が不在、返答できない状況には丁寧に回答する機会が多くみられた。
		・事業所運営、体制に関する検討、見直し	・新人育成や新規依頼の対応、収支の管理も行なう必要があると感じその点に専念した。今後は新人職員の担当を徐々に安定させ事業所運営体制に目を向けていきたい。
苦情の申し出	なし		
	数値目標	実績	来年度へ向けての方策
目標と実績	利用実績、平均95人を維持する。	介護:1004件 H28介護:879件 予防:137件 予防:145件 合計:1141件 合計:1024件 月平均95人	想像以上の居宅依頼増加により、対応に苦慮したが面もあるが応えられる努力を各人が行なうことで成長できたプラス面も多々ある。今年度行なうことができなかった事業所内の研修などを計画的に行い充実させ実質的な資質向上を目標とする。

平成29年度 施設別 年間事業報告

施設名(雲洞デイサービスセンターつばき園・雲洞グループホームつばき園)

基本的な考え方	私たちは、地域の児童・高齢者の皆さまのより良い生活の実現を目指し、時代の流れの先にある私たちにかかると、私たちが自ら挑戦しなければならないことを適時・的確に捉え、自立した地域社会の一員としての自覚と、幼児教育と福祉サービスの先駆者としての誇りを持ち、果敢に提言、実践を行い地域の幼児教育と福祉の向上を図ります			
理念	「その人らしさを尊重します」			
	「笑顔で誠実な対応をします」			
	「地域との繋がりを大切にします」			
項目	内容	具体的方策	評価・反省	
年度基本方針	1	「自分の仕事に誇りを持つ」	・認知症介護のプロとしての誇りを持ち、積極的に研修に参加するなどして自己研鑽に励む。	・認知症介護リーダー研修に参加。グループホームでの空き床利用のショートステイ可能となる。
	2	「同僚との絆を深める」	・思いやりの気持ちを大切にし、他職種の業務に対する理解を深める。	・職員の欠員期間があったが、デイサービスとグループホーム間で協力し業務を回すことができた。業務の負担となっている時間帯への効率的な連携もできた。
	3	「認知症に対する取り組み」	・ご利用者の活動に生産性を取り入れ、出来ること、役に立てることを実感していただき、生きがい、やりがいを持って過ごしていただく。	・毎年度行なっている雑巾縫いの他にも、毛糸などを使った作品やチラシのゴミ箱などを作っていた。作品の活用方法を作成者本人の意見も取り入れて考えていきたい。
			・ご利用者の「現在」に着目し、ご利用者本人がサービスの選択、決定、参画が出来る機会を提供できることを目標とする。	・活動参加の有無や内容をご利用者によって決めていただくということが定着してきており、職員主体ではなく、ご利用者主体のサービスであることを職員全員が考えて動いてきている。
			・認知症キャラバンメイトの取得、認知症サポーター養成講座の開催を通して、認知症の理解を広める。	・平成29年度も塩沢中学校1年生への認知症サポーター養成講座の開催をつばき園から講師を1名派遣しサポートすることができた。
	4	「自己点検・自己評価による職員の資質向上」	・機能訓練、各種活動の充実。目的を持って取り組み、評価、課題の抽出を行い、円環的に取り組む。	・計画的な活動の提供をすることが定着し、自分達の提供するサービスを月間カレンダー等で俯瞰的に確認することができるようになった。今後は活動の種類を増やしていきたい。
			・アセスメント、ケアプラン等の定期的な見直しを計画的に行う。	・ケアプランの見直しはケアマネの見直しとともに実施できたが、定期的なアセスメントは実施できず、今後計画的に実施していきたい。
・サービスの開始、終了時に不安なくサービスが受けられるように支援体制を整える。			・サービスの開始時はスムーズな受け入れができたが、退居時の支援については、次のサービスへのスムーズな支援ができないことがあり、今後の課題と感じた。	
5	「雰囲気の良い施設作り」	・介護技術だけでなく、対人援助の基本となる接遇面においても、プロを目指し、つばき園に出入りする誰もが心地よいと感じる環境を目指す。	・体験利用やご見学いただいた方から好評をいただくことができ、サービスの利用に繋がっている。今後も常に外からの視点を持ち、言動や環境に配慮したい。	
6	「環境整備」	・利用者の過しやすい環境、職員が仕事のしやすい環境を意識し、規律、清潔、整頓を徹底する。	・職員個々が利用者の環境、仕事の効率化を考え、適宜提案が出ている。慣習に囚われず、現在のニーズに合った改善を続けていきたい。職員の定着による慣れ親しみが悪い方向に作用しないように規律を再認識することが重要と感じる。	
7	「運営改善/人材育成」	・キャリアパスの考えを浸透させ、将来の姿が想像できる職場を目指す。 ・経費の節減に取り組む。 ・施設の特徴をアピールし、利用者、入居者の増員、確保を目指す。 ・施設内の連携を図り、無駄のない人員配置を行なう。	・キャリアパスの考えが浸透してきているが、キャリアパスの内容の精査が行なえておらず、今後の課題と感じる。 ・経費の節減に関しては、消耗品の定期的な価格の調査を行い、使用感に問題なく、また安い商品を選んでいる。 ・デイサービス、グループホームが連携し、人員の無駄をなくすことができています。	
目標と成果	数値目標		実績	来年度へ向けの方策
	デイサービス	年間延べ利用者数 3180人	H28年度:1985人 月平均:165人 H29年度:1887人 月平均:157人	・近隣デイサービス閉鎖に伴う新規利用者の紹介を積極的に受け入れ、月延べの利用者数200人以上をキープする。
	グループホーム	年間延べ利用者数 3285人(365日×9人)	H28年度:3139人 月平均:262人 H29年度:3094人 月平均:258人	・入退居にかかる空き床期間を2週間以内とし、計画的に入退居の手続きを進める。
事故苦情報告	事故苦情件数	内容		対策
		事故報告:平成29年9月グループホーム入居者転倒 左肋骨骨折		・見回り間隔の見直し、不眠状態の改善
	3件	事故報告:平成29年10月グループホーム入居者転倒 右大腿骨頸部骨折		・不眠状態の改善、ベッドから布団へ変更する
		事故報告:平成29年11月グループホーム入居者誤薬		・チェック体制の確認、業務への集中した取組
	苦情なし			